
東北大学陸上競技部

OB 通信

2012 年 No.3
(2012.7)

北海道大学対東北大学定期戦

- ・男子 12 連勝・通算 43 勝 29 敗 1 分
 - ・鈴木絢子(2)が女子 3000m で 10'06"84 の部記録樹立、大会記録樹立
-

～目次～

- ・秩父宮賜盃第 44 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区予選会
兼第 30 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会 ……2 ページ
- ・2012 日本学生陸上個人選手権 ……3 ページ
- ・北海道大学対東北大学定期戦 ……4 ページ
- ・七大戦の展望 ……10 ページ
- ・自己記録更新者一覧 ……12 ページ
- ・三秀編集委員会からのお知らせ ……12 ページ
- ・今後の予定 ……12 ページ
- ・編集後記 ……12 ページ
- ・会計報告 ……13 ページ

盛夏の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、秩父宮賜盃第 44 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区予選会兼第 30 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会、ならびに第 73 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第 25 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦の結果や、第 63 回全国七大学陸上競技大会兼第 23 回全国七大学女子陸上競技大会の展望などをお伝えします。

秩父宮賜盃第 44 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区予選会兼第 30 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会(6/30) 於 角田市陸上競技場

男子は出場枠 1 校、女子は出場枠 2 校。男子は 10000m、女子は 5000m を走り、合計タイムで競いました。東北大学は男子が 2 位、女子が 3 位という結果になり、全日本大学駅伝、全日本大学女子駅伝への出場を逃しました。

・男子団体戦結果

順位	大学	記録
1 位	東北福祉大学	4 時間 23 分 24 秒 01
2 位	東北大学	4 時間 23 分 55 秒 96
3 位	富士大学	4 時間 28 分 42 秒 63

・女子団体戦結果

順位	大学	記録
1 位	東北福祉大学	1 時間 45 分 26 秒 63
2 位	東北学院大学	1 時間 50 分 35 秒 68
3 位	東北大学	1 時間 51 分 27 秒 91

組	氏名(学年)	順位	記録
1 組	菅野 均(4)	5 着	32'02"27
	深渡 慎一郎(3)	7 着	32'16"16
	山本 悠平(3)	11 着	33'31"16
	三上 和樹(3)	24 着	34'44"59
2 組	尾形 翔平(4)	3 着	32'31"01
	石代 剛之(4)	6 着	32'47"99
	齋藤 寛峻(3)	7 着	32'47"99
	藤澤 萌人(3)	10 着	33'15"16

組	氏名(学年)	順位	記録
1 組	塩谷 美菜子(1)	10 着	19'29"77
	小高 真依(4)	11 着	19'45"88
	鈴木 はるか(4)	14 着	20'28"01
2 組	鈴木 絢子(2)	1 着	16'54"02
	及川 まりや(4)	2 着	17'09"95
	宮間 志帆(1)	6 着	17'40"28



右：尾形 左：石代



右：及川 左：鈴木（絢）

#2012 日本学生陸上競技個人選手権(6/22～24) 於 平塚市総合公園平塚競技場

6月22日から24日に平塚市総合公園平塚競技場で日本学生陸上競技個人選手権が行われました。我が部からは深渡(3)が男子3000mSCに、柳澤(4)が男子円盤投に出場しました。

・男子3000mSC タイムレース 1組

氏名(学年)	順位	記録
深渡 慎一郎(3)	11着	9'23"08

・男子円盤投 決勝

氏名(学年)	順位	記録
柳澤 邦彦(4)	11位	46m81

～日本学生陸上競技個人選手権大会出場報告～

深渡 慎一郎

6月24日(日)に平塚にて開催されました日本学生陸上競技選手権大会(旧チャンピオンシップ)に出場してまいりました。出場種目は3000mSCです。今大会は近く控えていた全日本・全女駅伝の地区予選会の調整の一環、並びに今季の七大戦に向けての実践練習を第一意義として出場しました。今回は、昨年の七大戦の際に、参加標準記録をコンマ1秒以下で切った出場でしたので、スタートリストの中では下から5番以内くらいに位置するという状況で、また次週に控えた別の大会の足掛かりのつもりだったので、大した緊張もなく最後まで比較的楽に走れました。総合的な順位からすると、下位に属してはいましたが、自分の出したタイムとその時の感覚を斟酌するに、まだまだタイムを伸ばす余地、更にはベスト更新の期待も持てそうに思います。残念ながら、予選会は涙を呑む結果でしたが、それに腐ることなく、来る七大戦では、優勝は無論、昨年の自分越え、延いては3000mSC歴代部記録の頂に立ちたいと思います。七大戦において、3000mSCは対校一発目のレースですのでチームの流れを冒頭で掴む鍵となるべく敢闘を御約束いたしますので、皆さん、どうぞ御支援・御声援の程宜しくお願いします。

～日本学生陸上競技個人選手権に出場して～

柳澤 邦彦

6月24日に平塚で行われた日本学生陸上競技個人選手権大会に円盤投に出場しました。天候は晴れていて絶好の大会日和でした。

一投目は力んでしまいファールとなりましたが、二投目三投目は良い緊張感の中で投げることができ、自己記録を更新することができました。残念ながら8位以内に入ることはできませんでしたが、去年の冬季練習での成果が確実に出ていると感じました。去年までは他の選手の大きさが気になって集中が散漫になることがありましたが、今回は感じませんでした。やっと同じ土俵に立てたのかと思います。応援して下さったみなさん、ありがとうございました。

個人戦後は七大戦で得点をより取るためにハンマーを中心に練習しています。七大戦では是非フィールド種目にも目を向けてください。

北海道大学対東北大学陸上競技定期戦(7/7) 於 仙台市陸上競技場

警報が出るような大雨の中で試合が行われました。天候の関係で競技日程の急な変更などもありましたが、無事終えることができました。男子は12連勝。女子は惜しくも敗れましたが、奮闘しました。女子3000mで鈴木(2)が部記録、大会記録を樹立しました。

トラック

男子 100m

- 1位 伊藤 亮輔(4) 10"89(+2.0)
- 2位 小林 大地(3) 11"06
- 3位 南 共哉(3) 11"11

大雨の中で、しかもフライングが一度あった後でのレース。

伊藤は安定したスタートからスムーズな加速をみせる。追い風に乗った素晴らしい走りで見事10秒台をマークして優勝。

小林もスムーズな加速で伊藤にくらいつき、自己ベストタイ記録で2着。

南は多少スタートで出遅れるも、その後は上手く加速。3着でゴールし、東北大ワンツースリーを達成した。

女子 100m

- 1位 中山 なつみ(3) 12"81(+2.2)
- 4位 千葉 愛里沙(2) 13"45
- 6位 房内 まどか(4) 13"86

中山は圧巻の加速で他に差をつけた。追い風参考ながら好タイムを叩き出した。

千葉はスタートで少し出遅れてしまう。しかし、北大の3番手との競り合いを0.01秒差で勝ち抜き、4位となった。

房内は上体がすぐに起き上がり、思うような加速ができなかった。結局挽回叶わず6位に終わった。

男子 200m

- 1位 伊藤 亮輔(4) 22"30(+3.3)
- 4位 杉浦 弘樹(2) 24"32
- DNS 小林 大地(3)

伊藤は力みのない余裕をもった走りでコ

ーナーを抜ける。後半もフォームを崩さずに駆け抜け、見事優勝した。

杉浦はウォーミングアップで脚を痛めたようで、力を出せずに4着に終わった。

男子 400m

- 1位 南 共哉(3) 50"19
- 2位 佐藤 洋介(3) 50"47
- 4位 畑岡 進(2) 51"09

南はスタートから落ち着いたレース展開。300m通過までは佐藤ら他の選手に先行されるもラスト100mで一気に抜き去り1着。

佐藤は前半から積極的な走りをみせ、先頭で300mを通過。ラスト100mで南に抜かれたものの2位を保ち自己ベストをマークした。

畑岡は少し前半を抑えすぎたようにも見えたが、全体的にまとまったレースで4位。

女子 400m

- 2位 下島 千歩(3) 62"75
- 4位 房内 まどか(4) 64"42
- 5位 千葉 愛里沙(2) 66"09

下島は先頭の北大の選手についていけない。後ろとも差がついた状態で、2位。

房内はバックストレートで勢いのある走りを見せ、300mまで良いペース。しかし、ラスト100mで失速し、4位に終わった。

千葉はスタートから前についていけずに5位に終わった。

男子 800m

- 2位 辻川 優祐(4) 1'57"99
- 3位 大野 良輔(4) 1'58"64
- 4位 長谷川 遼平(4) 1'59"83

序盤から北大の選手が先頭にたち、大野、

辻川、長谷川の順にそれに続く。200m以降は全体的にペースダウンするも、位置関係は変わらずにラスト 300m へ。ここで先頭が仕掛けるも、3人はついていけない。ラストの直線で前の大野を辻川がかわし、辻川、大野、長谷川の順でレースを終えた。

女子 800m

- 1位 鈴木 絢子(2) 2'23"75
- 2位 宮間 志帆(1) 2'28"76
- 6位 梶山 あずさ(1) 2'44"32

鈴木、宮間ともに序盤から前を走り、後続と差を広げていく。そのまま1、2着でフィニッシュ。梶山はまだ1年生ということもあり、思うような走りができなかったようだ。

男子 1500m

- 2位 金子 修平(3) 4'06"11
- 4位 山本 悠平(3) 4'13"37
- 6位 山根 由経(3) 4'28"46

序盤、山根が前に立ち、山本、金子はそれに引っ張られるように走る。ラスト 300m、金子が切り替え、北大の3番手、2番手を捕える。スパートが少し遅かったか、先頭には僅かに及ばず2着でフィニッシュ。山本は中盤で山根の前に出て、最終的には4位。山根は後半粘れず6着に終わった。

女子 3000m

- 1位 鈴木 絢子(2) 10'06"84
- 2位 宮間 志帆(1) 10'22"83
- 6位 鈴木 はるか(4) 12'21"00

スタートから鈴木(絢)が先頭にたち、宮間が続いた。鈴木(は)は後方でレースを展開。鈴木(絢)は2000mまで安定したペースを保ち、ラスト1000mで更にペースアップ。見事大会記録かつ部記録の10'06"84で優勝した。宮間は中盤からペースを落としたが、2位でフィニッシュ。鈴木(は)は体調も良くなかったようで、自分のペースを刻めず6位。

男子 5000m

- 1位 石代 剛之(4) 15'20"63
- 2位 藤澤 萌人(3) 15'40"76
- 5位 田辺 明(3) 15'48"95

石代が終始先頭で引っ張るレースとなった。3位集団で藤澤は自分のペースを守った走り。田辺はその少し後ろで前を伺う。2000m過ぎで田辺が集団に追いつき、3000m付近で北大の2選手がペースを落とし始め、藤澤3番手、田辺4番手でラスト1000mへ。石代は相変わらず先頭。ここで藤澤がスパートをかけ、2位の選手を抜き去った。結果、石代、藤澤でワンツーフィニッシュ。田辺は一度抜いた選手にラストでかわされ5位に落ちたが、見事自己ベストをマークした。

男子 110mH

- 1位 渋谷 知暉(4) 15"62(+2.8)
- 4位 工藤 知央(1) 15"79
- 5位 向出 周太(3) 16"08

渋谷はケガからの復帰直後であったが、上手くまとめて見事1着でフィニッシュ。実力的にはまだ出るはずなので、七大戦での活躍に期待したい。

工藤は前半から非常に良い動き。その後少しリズムが落ちたようにもみえるも、終盤で持ち直して2位争いを繰り広げる。しかし0.02秒の僅差で4着となった。

向出も前半から素晴らしいハードリングをみせ、上位につける。しかし、5台目をひっかけ、大きくバランスを崩す。その後は遅れを取り戻せず5着に終わった。

男子 400mH

- 2位 工藤 知央(1) 57"50
- 4位 佐藤 基明(3) 59"71
- 6位 本間 大輔(2) 61"79

工藤は余裕をもった走りで200mを通過。この時点で前に北大の選手が1人。後半頑

張り、差を詰めたものの届かず 2 着。

佐藤は序盤から歩数が合わず、いつも通りのレースができないまま 200m を通過。その後はペースを落とさずに前との差を縮め 4 着でレースを終えた。

本間は急遽補欠からの出場となったが、終盤苦しいレースとなり 6 着に終わった。

男子 3000mSC

3 位 森部 峻介(4) 10'03"30

4 位 三上 和樹(3) 10'06"85

5 位 川口 亮平(D3) 10'08"49

前半 1000m までは北大 3 選手が前を走る展開。森部、三上、川口がそれに続く。中盤にかけて全体的に若干失速し、先頭の 2 選手に離される。その後落ちてきた 3 番手の選手を 3 人で追い越し、東北大同士での 3 位争いが続く。後半、失速した川口を森部、三上が追い越し、2 番手の北大の選手を追うも差を詰めるだけにとどまり、森部、三上、川口の順に 3、4、5 位でレースを終えた。

男子 4×100mR

1 位 42"60

南(3)-伊藤(4)-向出(3)-小林(3)

東北大は 5 レーン、北大は 4 レーン。

南はそれまでのレースの疲労を感じさせない素晴らしい走り。北大に先行してバトンを伊藤に繋ぐ。

伊藤は 1 時間前の 100m の影響か、いつもの動きではなかった。それでも北大に先行したままバトンを綺麗に繋ぎ、3 走へ。

向出は先頭を守り抜く安定した走り。コーナーを丁寧に回りバトンはアンカーへ。

アンカー小林は脚の調子が良くなかったらしく、少し動きがおかしかった。それでも 1 位を確保しつつ余裕をもってゴール。

女子 4×100mR

1 位 51"37

下島(3)-中山(3)-千葉(2)-房内(4)

東北大 5 レーン、北大 4 レーンでのレース。1 走下島は北大に差をつけられるが、懸命にくらいつく。

2 走中山は伸びやかな加速をみせ、北大と差をつけていく。リードした状態でバトンは 3 走へ。

千葉もスムーズにコーナーを走り、加速していく。リードを保ったままバトンはアンカーへ。

房内は、北大のアンカーに差を詰められながらも逃げ切り、見事優勝した。

男子 4×400mR

1 位 3'22"16

佐藤(1)-高林(M1)-畑岡(2)-南(3)

佐藤は前半抑え気味の走り。200m の通過で外側の北大の選手に並ばれるも、その後はギアを入れ替え、上手くまとまったレースをみせた。

急遽出場となった高林だが、素晴らしい走りで先頭に。北大との差を広げながら走り、バトンを 3 走へ。

畑岡も前半から快調な走り。ラストもよく粘り、先頭のままバトンはアンカーへ。

余裕をもってバトンを受け取ったアンカー南。それまでのレースの疲労を多少感じさせる動きだったが、リードをしっかり守り抜き、見事 1 着でフィニッシュ。



レース後のマイルメンバー

フィールド

男子走高跳

2位 岡部 大輝(2) 1m90

4位 奥 裕之(3) 1m80

DNS 藤井 翼(4)

岡部は 1m85 からの競技。流れた跳躍となったが 1 回でクリア。1m90 は 1、2 本目ともに助走の前半から上げ過ぎ、失敗。3 本目では後半しっかりテンポアップして成功。1m95 は失敗こそしたものの、3 本目には良い跳躍をみせた。

奥は七大戦を見据え、1m80 からの挑戦。しかし、高さのピークを合わせられず 2 本失敗。3 本目でかろうじて合わせてクリア。1m85 に挑んだが、やはり高さのピークがずれて失敗。4 位に終わった。

藤井は競技日程の関係で棄権した。

女子走高跳

2位 星 まさみ(3) 1m45

3位 村岡 美可子(1) 1m40

4位 下島 千歩(3) 1m30

星は 1m35 からの挑戦。1m40 まで問題なくクリアする。1m45 には 1 本目失敗するも、2 本目でうまく修正し見事クリア。1m50 には失敗したが、2 位入賞を果たした。

村岡は走高跳初出場。はさみ跳びで 1m25 を確実にクリアし、記録を残す。その後は 1m40 まで記録を伸ばし、3 位となった。

下島は 1m25 からのスタート。1m30 までを 1 発でクリアするも、他種目との兼ね合いで 1m35 に 1 度しか挑戦できなかった。1m40 に挑むも、クリアできず 4 位となった。

男子棒高跳

1位 高橋 理寛(4) 4m30

3位 佐藤 裕貴(3) 4m10

DNS 藤井 翼(2)

高橋は雨の中ということもあり助走を短

めにとったが、3m80 を 2 本目でクリアすると、その後は 4m20 まで一発クリア。4m30 も 2 本目で見事成功。この記録で優勝を果たした。

佐藤は 3m60 からの挑戦。一度失敗するも、その後しっかりとクリア。4m00 まで順調に記録を伸ばす。4m10 では、1、2 本目は頂点が合わずに失敗するも、3 本目でしっかりと修正し、自己ベスト。4m20 は向かい風に苦しみ、成功には至らなかったが 3 位となった。

藤井は練習跳躍で怪我をし、やむなく棄権した。

男子走幅跳

1位 安井 令(4) 6m86(+2.6)

2位 藤井 翼(4) 6m70(+1.7)

5位 増村 巧(3) 6m17(+2.0)

雨は弱まり、若干風が強い中での試合。

安井は 2 本目、追い風参考ながら 6m86 をマーク。しかし、この跳躍は板の少し手前。3 本目も同様で、記録も 2 本目と同じ。4 本目以降は記録を伸ばせなかったが、見事優勝を決めた。

藤井は 1 本目からしっかりと踏みきり、追い風参考ながら 6m66 のベスト記録。脚の痛みもあったようで助走スピードは上がりきっていないように見えた。風を待ってからの 4 本目、6m70 の公認ベスト。スピード自体は上がらないものの、ラストのテンポアップがスムーズにいった。

増村は 2 本のファールの後、3 本目で記録を残すも、5m 台にとどまる。4 本目以降は追い風も見方につけ、5 本目の 6m17 で公認ベストを記録し、5 位。

女子走幅跳

3位 中山 なつみ(3) 4m89(+1.8)

5位 後藤 文子(1) 4m71(+2.0)

6位 金子 奈緒(2) 4m62(+1.8)

中山は 1 本目でしっかり結果を残し 4m89。しかし、後半は疲労のためか記録を伸ばすことができず 3 位となった。

後藤は 1 本目から踏切をしっかり合わせた跳躍。少し高さが足りない跳躍となったが、5、6 本目と記録を伸ばし 5 位となった。

金子は 2 本のフェールの後、3 本目でひとまず記録を残す。5 本目以降から感覚を戻し、記録を伸ばすも 6 位に終わった。

男子三段跳

- 1 位 岡部 大輝(2) 13m83(+1.8)
- 2 位 田中 悠貴(3) 13m76(+3.0)
- 4 位 森田 貴大(3) 13m20(+1.0)

岡部は 2 本目、ステップで潰れつつも 13m83 をマークし、トップに。その後は、助走スピードは速いが上体が崩れた跳躍となり記録を伸ばせなかった。6 本目には怪我防止のためにパスしたが、2 本目の記録で優勝を決めた。

田中は 1 本目、ジャンプで潰れながらもベスト記録をマーク。2 本目、3 本目と更に記録を伸ばして 13m76 の記録で 2 位入賞。4 本目以降は疲労からか上手く跳べずに記録を伸ばせなかった。

森田の 1 本目、ホップ、ステップと順調に進むが、ジャンプで大きく潰れた。2 本目はホップ抑え気味の跳躍で、その後は潰れはしないものもうひとつ伸びきらなかった。脚の調子をみてこれ以降をパスし、4 位となった。

男子砲丸投

- 1 位 柳澤 邦彦(4) 12m46
- 5 位 藤井 翼(4) 9m95
- 6 位 石川 遼(2) 9m65

雨の中での競技。柳澤は安定して 12m 台の投擲をみせ、4 投目は 12m46 をマーク。2 位以下を大きく引き離して優勝を決めた。

藤井は 1 投目に記録を残すも、伸ばしき

れずに 4 投目を迎える。ここで 9m95 をマークしてこの記録で 5 位に。全体的にグライドにスムーズさがなく上手く押しきれていないようであった。

石川はまだ不慣れな種目のためか、記録に安定感がなかった。3 投目の 9m65 が最高記録。今後の活躍に期待したい。

女子砲丸投

- 3 位 下島 千歩(3) 7m26
- 5 位 星 麻沙美(3) 6m10

下島は安定して 7m 台を記録。3 投目の 7m26 で 3 位となった。

星は 3 投目で 6m 台にのせたが、その後は記録を伸ばしきれず 5 位に終わった。

男子円盤投

- 1 位 柳澤 邦彦(2) 40m76
- 2 位 石川 遼(2) 33m61
- 4 位 藤井 翼(4) 30m96

柳澤は雨の影響か、いつもほど速いターンは見られなかった。それでも他を圧倒して優勝した。

石川は 1 投目できちんと 32m 台をマーク。その後はフェールもあり記録を伸ばせずにいたが、5 投目に 33m61 を投げて 2 位に浮上。そのまま 2 位入賞を決めた。

藤井は走幅跳と時間帯が重なっていた中での競技となった。3 投目までは記録を残すことに専念し、低調な記録。その後は記録を伸ばし始め、5 投目に上手くはまりベスト記録の 30m96。この記録で 4 位となった。

男子ハンマー投

- 1 位 柳澤 邦彦(2) 38m25
- 2 位 八柳 暁(4) 35m00
- 4 位 田附 遼太(4) 30m09

柳澤は 2 投目で記録を残すと、3 投目に 38m25 で自己ベストの投擲。6 投目にも 3 投目と同一の記録を残し、砲丸投、円盤投に続いて優勝した。

八柳は 1 投目から 33m 台の記録を残し、安定した試合。6 投目には 35m00 をマークし、2 位となった。

田附は 1 投目、慎重な投擲で記録を残す。2 投目に 30m 台に乗せるも、フィニッシュがよくない。4 投目以降ファールが続き、怪我明けということもあり記録を伸ばせず 5 位に終わった。

男子やり投

- | | | |
|-----|-----------|-------|
| 1 位 | 杉本 和志(M1) | 54m98 |
| 2 位 | 伊藤 泰彬(2) | 49m57 |
| 3 位 | 高橋 航(3) | 48m66 |

雨の中での試合となった。杉本は 1 投目でトップにたつと、その後記録を伸ばせないうまでも安定した投擲。6 投目には 54m98 を残し、見事優勝した。

伊藤は雨の中コンディションを整えられず、3 投目まで苦戦を強いられる。しかし、4 投目でしっかりと 2 位に浮上し、6 投目にはさらに記録を伸ばした。

高橋は 1 投目でしっかりと 48m66 の投擲。その後は記録こそ伸ばせなかったものの、3 位入賞を果たした。

#七大学対校戦の展望

いよいよ待ちに待った七大会の季節がやってきました。今年の会場は福岡県の博多の森陸上競技場です。総合優勝を目指して頑張りますので、是非応援にお越し下さい。

今年の出場メンバー(変更の可能性あり)を発表します。紹介文は筆者の主観ですのでご了承ください。

● 男子 100m

伊藤亮輔(4) 畠山真慈(4) 小林大地(3)

北大戦で10秒台を叩き出した伊藤は十分に得点が期待できる。小林、畠山もケガから復調すれば3人での得点もできるだろう。

● 男子 200m

伊藤亮輔(4) 畠山真慈(4) 小林大地(3)

100mと同じ布陣。北大戦で22"30の伊藤はもちろん、他の2人も22秒前半が狙えるので、3人で得点することに期待したい。

● 男子 400m

南共哉(3) 杉浦弘樹(2) 佐藤洋介(1)

今季絶好調の南は表彰台が狙える。杉浦、佐藤も49秒台目前なので入賞を期待できる。

● 男子 800m

辻川優祐(4) 長谷川遼平(4) 金子修平(3)

昨年入賞した辻川はもちろん、今季好調な長谷川も2分を切っている。金子は自己ベストを出せば十分得点に絡める。

● 男子 1500m

大野良輔(4) 菅野均(4) 三上和樹(3)

昨年優勝の三上には是非とも2連覇を期待したい。大野、菅野も好調で、得点の可能性は十分にある。

● 男子 5000m

菅野均(4) 石代剛之(4) 深渡慎一郎(3)

得点の難しい種目だが、3人とも15分台前半の記録を出している所以で期待したい。

男子 110mH

渋谷知暉(4) 向出周太(3) 工藤知央(1)

渋谷は怪我から復帰したばかりだが、本調子になれば昨年以上の結果も期待できる。今年に入賞水準がかなり上がっているが、

向出、工藤にも期待したい。

● 男子 400mH

向出周太(3) 千葉優人(2) 工藤知央(1)

山形県選で好記録をマークした千葉には優勝の期待が高まる。自己記録が55秒台の工藤も本来の力を発揮すれば上位が狙える。向出も56秒台が出れば得点が見えてくる。

● 3000mSC

尾形翔平(4) 深渡慎一郎(3)

深渡は昨年の優勝者、尾形は2年連続5位に入賞している。今年も高得点が見込める。

● 男子 4×100mR

伊藤(4) 畠山(4) 小林(3) 南(3)

向出(3) 阿部(2)

今季は既に41秒台をマークしており、例年以上の結果が見込める。畠山、小林らの怪我からの復帰がポイント。

● 男子 4×400mR

安井(4) 南(3) 杉浦(2) 千葉(2)

畑岡(2) 佐藤(1)

今季絶好調の種目。フラットレースで南、千葉は49秒台、他3人が50秒台をマークしており、メンバーの選考にも注目が集まるところ。最終種目であるので、是非とも優勝を勝ち取って欲しい。

● 男子走高跳

奥裕之(3) 岡部大輝(2) 山田健太郎(2)

全員が得点圏内であり、高得点が見込める。特に1m97を跳んでいる山田には優勝の期待が高まる。

● 男子棒高跳

高橋理寛(4) 藤井翼(4) 佐藤裕貴(3)

昨年優勝の高橋には、昨年同様調子を合わせての優勝を期待したい。佐藤も得点圏内、藤井も過去 2 回入賞しており、今年も高得点が見込める

● 男子走幅跳

安井令(4) 藤井翼(4) 増村巧(3)

エース岡崎が怪我で不在だが、安井、藤井ともに力は十分なので有終の美を期待したい。増村も北大戦で好調であった。

● 男子三段跳

田中悠貴(3) 森田貴大(3) 岡部大輝(2)

3 人とも得点可能と期待される。岡部はランキング上位に位置し、北大戦でベストを更新した田中も得点圏内。森田は昨年ベスト 8 の経験がある。

● 男子砲丸投

藤井翼(4) 柳澤邦彦(4) 石川遼(2)

13m を投げている柳澤の 3 連覇は堅い。藤井も得点可能な位置にいる。石川は砲丸投を始めたばかりであり成長に期待できる。

● 男子円盤投

藤井翼(4) 柳澤邦彦(4) 石川遼(2)

今シーズン好調の柳澤の優勝はほぼ間違いなし。どれだけ大会記録を更新できるかが期待される。藤井、石川も徐々に記録を上げており、入賞の可能性は高い。

● 男子ハンマー投

田附遼太(4) 八柳暁(4) 柳澤邦彦(4)

今年は 3 人での得点が可能である。柳澤はこの種目で優勝できれば 3 冠はほぼ確実であり、期待が高まる。八柳も記録を伸ばしてきており、上位を狙える。田附は怪我から復帰したばかりだがもう一伸びに期待したい。

● 男子やり投

高橋 航(3) 中道和輝(3) 伊藤泰彬(2)

昨年優勝の杉本が抜けたが、伊藤は優勝候補の 1 人。今季好調の高橋も上位に位置している。中道には一発に期待したい。

● 女子 100m

中山なつみ(3) 千葉愛里沙(2)

今季 12 秒台をマークしている中山は優勝候補。千葉も 13 秒台前半で走れるので、期待できる。

● 女子 400m

房内まどか(4) 下島千歩(3)

入賞の厳しい種目だが、房内には女子主将としての頑張りに期待したい。下島も入賞を期待したい。

● 女子 800m

鈴木絢子(2) 宮間志帆(1)

鈴木、宮間ともに上位に位置している。是非とも得点を期待したい。

● 女子 3000m

及川まりや(4) 鈴木絢子(2)

及川、鈴木ともに表彰台に登る可能性は高い。暑い中ではあるが、北大戦で鈴木がマークした部記録の更新も期待したい。

● 女子 4×100mR

房内(4) 下島(3) 中山(3)

千葉(2) 金子(2) 後藤(1)

部記録を出し、調子が上がっている今年には表彰台を狙える。部記録を更新できるかにも期待したい。

● 女子走高跳

星麻沙美(3) 安倍 英理奈(2)

安倍には 2 連覇の期待が高まる。1m45 を跳んでいる星も入賞の可能性が高いので、2 人で高得点をとってくれるであろう。

● 女子走幅跳

中山なつみ(3) 金子奈緒(2)

レベルの高い試合が予想される。中山は得点が期待できる。金子は得点圏内から外れているが、頑張ってもらいたい。

● 女子砲丸投

下島千歩(3) 安倍英理奈(2)

経験の浅い選手の出場となるが、なんとか得点争いに絡んでもらいたい。

自己記録更新者一覧(6/2～7/7)

男子

・ 100m		
伊藤 亮輔(4)	10"89	(北大戦)
南 共哉(3)	11"11	(〃)
竹原 大(1)	11"89	(〃)
・ 200m		
南 共哉(3)	22"66	(北大戦)
・ 400m		
高林 佑輔(M1)	48"80	(日体大競技会)
佐藤 洋介(1)	50"47	(北大戦)
畑岡 進(2)	50"58	(七十七銀行記録会)
・ 5000m		
高橋 佳希(1)	15'41"56	(北大戦)
田辺 明(3)	15'48"95	(〃)
・ 10000m		
菅野 均(4)	31'50"38	(角田市記録会)
三上 和樹(3)	32'43"69	(〃)
植木 達矢(3)	33'13"59	(〃)

・ 走幅跳		
藤井 翼(4)	6m70	(北大戦)
増村 巧(3)	6m17	(〃)
・ 棒高跳		
佐藤 裕貴(3)	4m10	(北大戦)
・ 円盤投		
柳澤 邦彦(4)	46m81	(個人選手権)
藤井 翼(4)	30m96	(北大戦)
八柳 暁(4)	26m76	(〃)
・ ハンマー投		
八柳 暁(4)	35m00	(北大戦)

女子

・ 3000m		
鈴木 絢子(2)	10'06"84	(北大戦)
・ 5000m		
鈴木 絢子(2)	16'54"02	(全女子選会)
宮間 志帆(1)	17'40"28	(〃)
・ 走高跳		
星 まさみ(3)	1m45	(北大戦)

三秀編集委員会からのお知らせ

三秀第 58 号の会計報告において、平成 23 年度収支決算書を掲載しそこねてしまいましたので、次ページより掲載させていただきます。申し訳ございませんでした。
(※HP 版では割愛させていただきます。電子版、または郵送版をご覧ください。)

今後の予定

7月 27～29日	北日本インカレ	仙台市陸上競技場
8月 4～5日	七大戦	博多の森陸上競技場
8月 11～12日	東北総体	仙台市陸上競技場
8月 18～19日	東北選手権	秋田県営陸上競技場

編集後記

今号の発行が遅くなり申し訳ございません。7月号ですが、印刷版をお受け取りの方がこの文章を目に通される時にはもう8月かもしれません。

間もなく七大戦です。今年は福岡での開催で暑さが心配ですが、暑さを吹き飛ばすような熱気で頑張ります。目指すは当然総合優勝。8月5日当日、藤井主将の胴上げを目指します。OB・OGの皆様方には応援のほどよろしくお願いいたします。

文責 副務 保坂佑斗